

「リスクマネジメント」に関して

内容

1. リスクの定義
2. 「リスク」とは何か
3. 「リスク」の捉え方
4. 問題対処のタイミングと労力
5. リスク要因とプロジェクトマネジメント
6. リスク(問題)の現象
7. リスクの分類とキャッチ
8. リスク低減の方策

1. リスクの定義

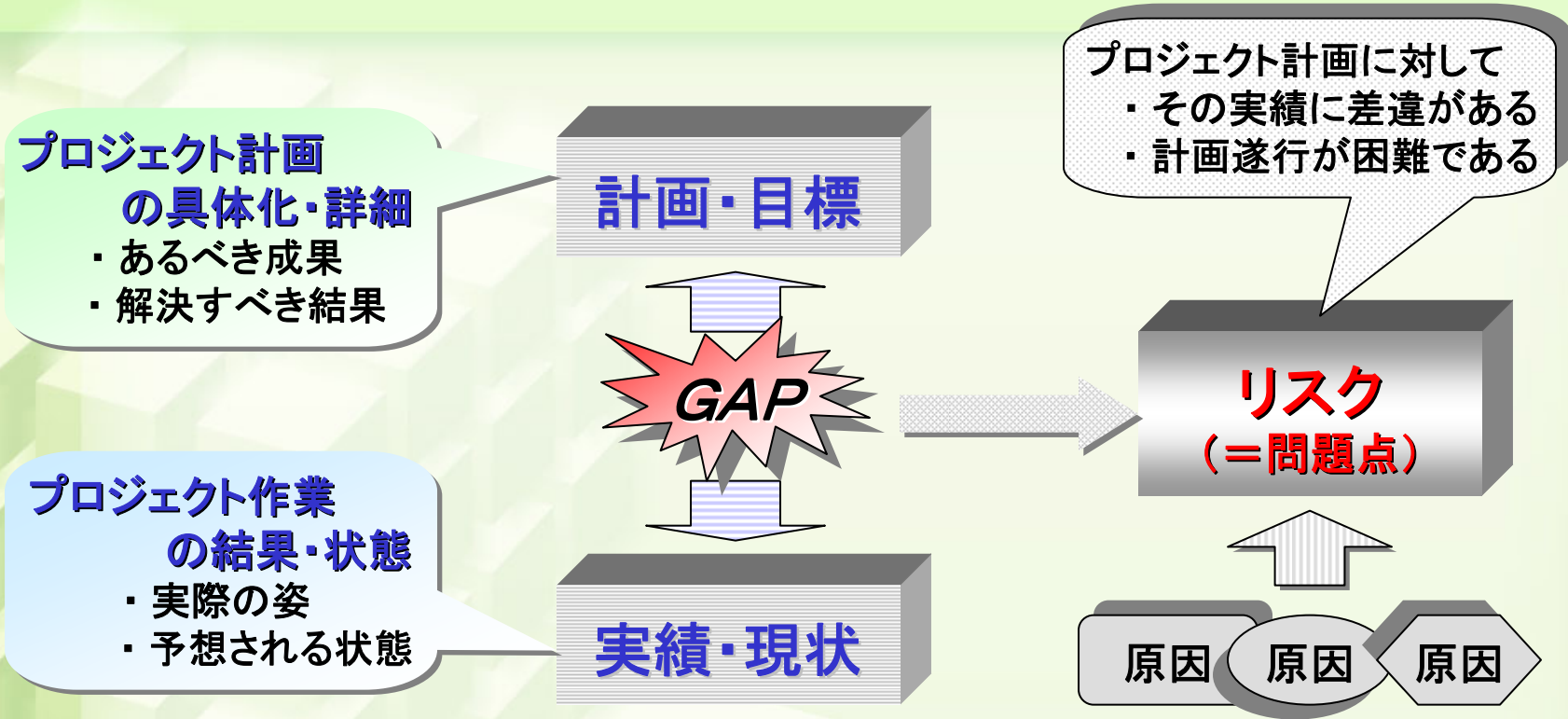
リスクとは = 金額・信用の損失が生じる危険の度合

リスクマネジメントとは

- ① リスクを低減することによって、損失を防ぐ
 - ーリスクを見つけ事前に対策を打つ
(リスクアセスメントの実施)
 - ーリスクをおかす計画を持たない

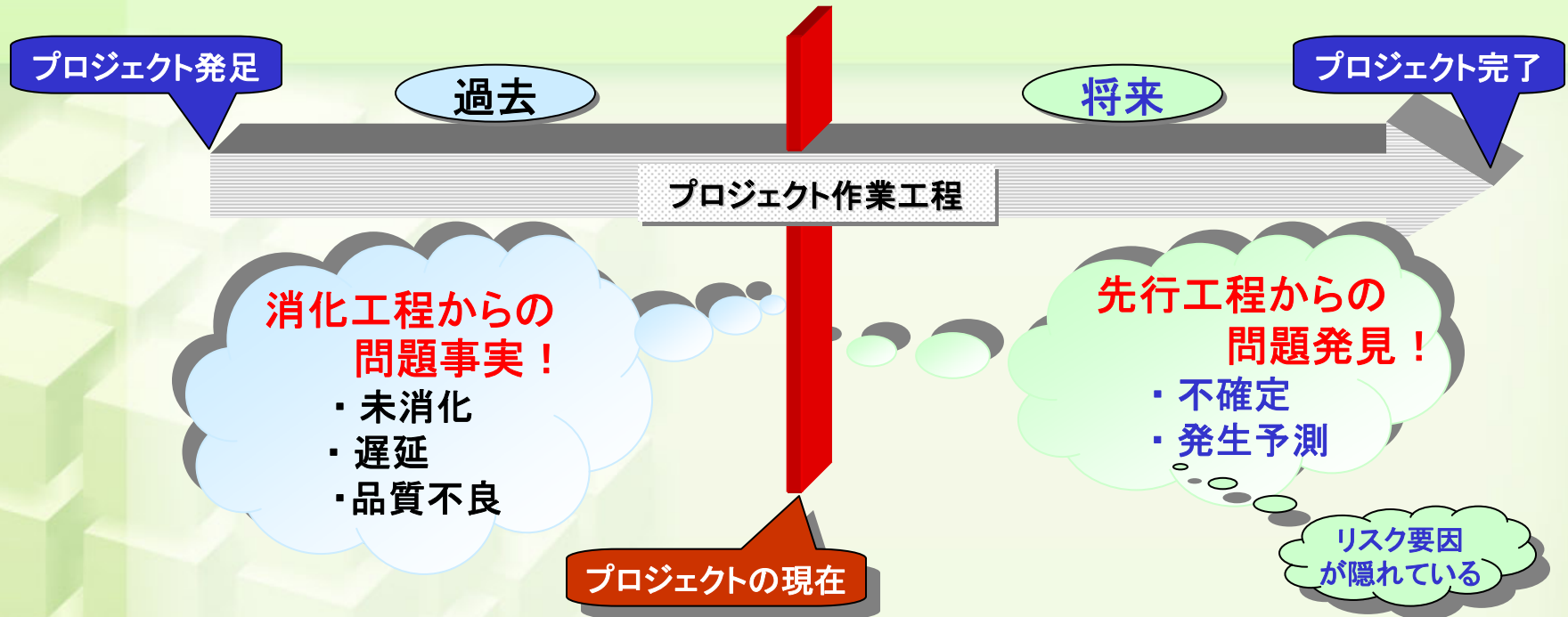
- ② 生じた損失を最小限に食い止める
(予防策を考える)
 - ー早期に損失に手を打ち実行する
 - ー事前に計画・対策を立てておく
(コンティンジェンシープランの作成)

2. 「リスク」とは何か



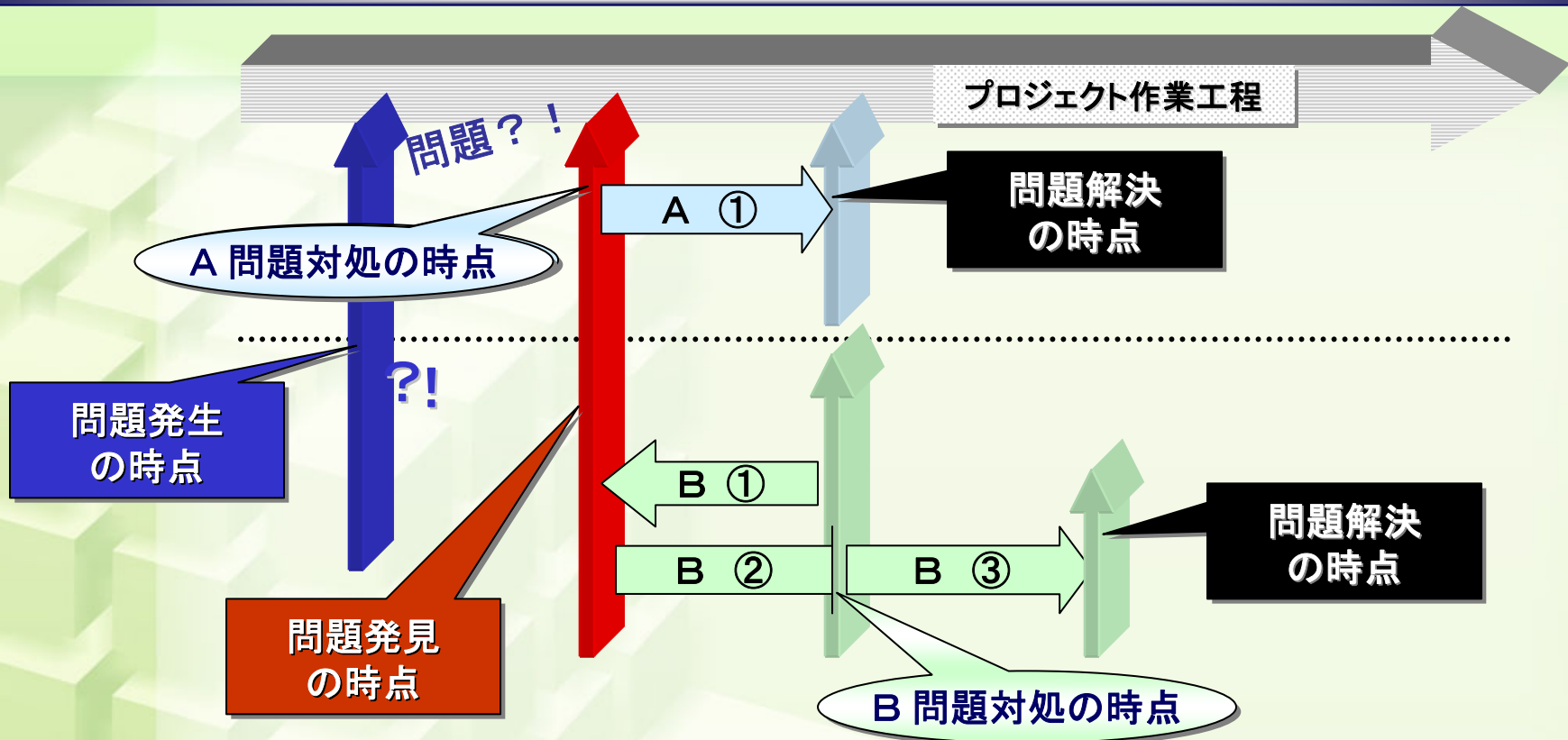
★ プロジェクト計画とその作業結果・作業予測の差違が、リスク(問題点)である。
★ リスクの除去は、問題を生じしめている「各原因」の究明と明確化にかかっている。現在と将来の視点から、「問題の発見と認識及び原因」に注視し実践することがリスクマネジメントの大切な要件になる。

3. 「リスク」の捉え方



- 先行の作業工程において「影響を与える過去の問題」を解決することが大切である。単なる問題の消化は次の作業工程で再燃する可能性を残していることを肝に銘ずるべきである。
- プロジェクトのゴールである成果物と納期を見据えて、「品質」「作業進捗」「予算」面から「不確実性」を洗い出し整理することが、プロジェクトのリスク回避の基本である。

4. 問題対処のタイミングと労力



★「Aのケース」は、問題発見と問題対処がタイミング良く実施されたケースである。
★「Bのケース」は、問題対処が遅れた為に「Aのケース」の**3倍の工数**と**2倍のエネルギーと時間**を要している。このことはリスクの拡大と共にプロジェクト資源(コスト・工数・時間)の浪費を意味している。
「**問題の放置・未対処・未発見はリスクマネジメントの不在**」とも言える

5. リスク要因とプロジェクトマネジメント

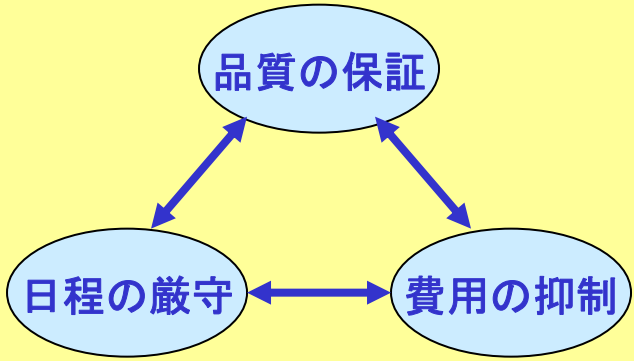
● プロジェクトマネジメントの狙いを狂わせるリスク要因は、次のような事項が想定されます。これらリスク要因の事前対処・即時対応がプロジェクトマネジメントの基本です。

リスク要因！

- 顧客要求事項の変更・拡大・未整理
- 体制の不備・責任感の欠如
- 見積評価のミス・漏れ・未熟
- 設計ミス・漏れ・理解不足
- 要員の技量不足・知識不足
- プロジェクトマネジャーの力量不足
- 作業の優先度・重要性の未設定
- プロジェクト資源の予備無し
- 契約条件の曖昧さ・不備
- 顧客の果たすべき作業・判断が遅い



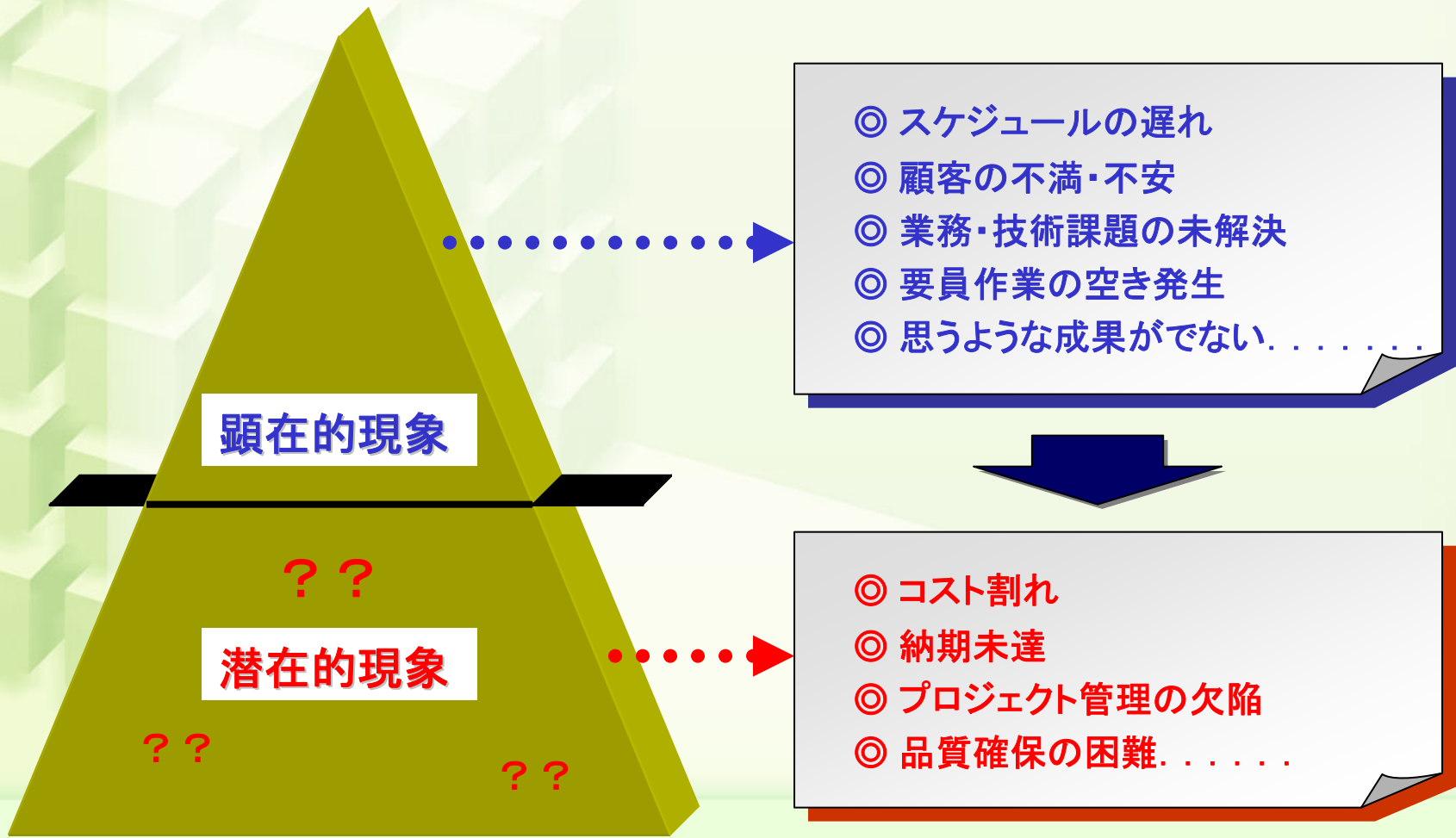
プロジェクトマネジメントの狙い



- ・ プロジェクト計画
- ・ プロジェクト進捗管理
- ・ プロジェクト完了

6. リスク(問題)の現象

● プロジェクトの個々に生じて把握できる顕在的問題の現象から、如何にしてその問題が今後のプロジェクト活動に支障をきたす**リスク(潜在的現象)の把握**が重要！



7. リスクの分類とキャッチ

- プロジェクト活動において、普段から「リスクの分類」の視点から関心を持ち、リスク情報のキャッチの習慣を持つことです。リスクキャッチは次の方法が考えられます。

リスクの分類

- 技術
- 品質、性能
- プロジェクトマネジメント
- コスト、時間(納期)
- スコープ目標(対象範囲)
- スケジュール(ベンダ・ユーザ)

リスクのキャッチ

- 成果物
- 作業進捗
- ユーザの声
- メンバーの声
- 基準設定
- レビュー
(ベンダ/ユーザ)

- ★ 実行計画と実績のズレとその原因究明
- ★ 作業の重点管理とABC分析の徹底
- ★ ゴールからの障害発見と早期の対策
- ★ レビュー実施による中間成果物のチェック
- ★ 共同作業の徹底と役割分担の順守
 - メンバーからの意見収集(聞く・聴く)
 - 「疑問・要望・意見」の早めの提起
 - SEの理解度と作業結果への検証
 - チームワークと情報共有の励行